

「支え支えられていることの大切さ」

福岡市立下山門中学校

伴 柚葉

一年前の夏。日頃元気な母が、夜明けに急に体調を壊した。胸が苦しいと異変を訴えるので、私はとても焦りました。歩くのも厳しい様子だったので、父が慌てて救急車を呼びました。私は生まれて初めて自宅に救急車が停まり、救急隊員が駆け込んでくるといふ経験をしました。電話をしてから到着まで10分もかからなかったのを覚えています。不安で仕方がなかった私は、目の前で処置を受ける母を見て、どうなるのか怖さと不安でいっぱいでした。幸い、大事には至らず、母の意識も戻り、本当に良かったと感謝した事を今でもはっきりと覚えています。

この作文を書くに当たって、税について調べた際に、目に止まったのが、救急車と税の関わりでした。救急車は行政のサービスの一環であり、救急隊の人員費や救急車のガソリン代、メンテナンス代など、全て自治体の税金が使われていることを知りました。今まで、税金というと真っ先に思い浮かぶのが消費税で買い物をする度に、消費税が加算される事が嫌だなあと考えたこともあります。なぜ私達が税金を払わないといけないの？と疑問に思っていました。国民一人一人が払っている税金が、こうやって誰かの命を救う救急車のサービスに使われたりしていると考えれば、税金は嫌なことだけではなく、私達の生活にとって欠かせないものであることが分かりました。現在、コロナ禍の世の中も影響しているかもしれませんが、日本の救急車の出動は年々増加傾向にあります。そして、救急車一回の出動でなんと約45,000円の税金が使われているそうです。つまり、その金額を税金によって賄われているのです。世界で見ると、アメリカやカナダでは、救急車を呼ぶのは有料で、一キロ毎に加算される仕組みだそうです。人が生きるか死ぬかの際に救急車を呼ぶことで高額なお金がかかるとなると躊躇する人も出てくるかもしれない。そう考えると、日本のこのサービスは有難いと思いました。こうして税金が使われることはほんの一部にすぎません。私達の安全を守るために、消防車やパトカーもそうです。健康や生活を守るために、予防接種や、お年寄りの年金に支払われたり、今私達が毎日教育を受けられるのも税金のお陰だと知りました。

一人一人の税金が誰かを支え、支えられている日本でありたいと思います。